



発行所
新潟市川岸町二丁目
新潟明訓高等学校同窓会
会長 渡辺 惇夫

- 一 母校愛精神の昂揚
- 二 伝統保持と敬愛
- 三 会員の連繋と相互扶助

ご挨拶

― 母校の移転新設事業の

成功を祈って ―



同窓会長
渡辺 惇夫

秋の涼気も爽やかな過ぎやすい毎日となりました。同窓会員の皆様には益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察し、心からお喜びを申し上げます。

平素は同窓会活動及び母校新潟明訓高等学校の発展向上のために、暖かいご理解とご協力をいただき、衷心より感謝を申し上げます。お陰様で我が同窓会も、二万五千有余名の会員を擁し、年々活動実績を積み重ねながらその存在感を増し、母校の発展とともに、内外に高い評価を得られるに至りましたことは、我々の大きな喜びであり、誇りでもあります。これも偏に、会

員皆様の変らぬ母校愛と日頃の精進と努力の賜ものであり、加えて、学校ご当局をはじめ、関係者の皆様のご支援があつてのことであり、ここに改めて厚くお礼を申し上げます。これからも我々は、母校の建学の精神を大切に、多くの先輩の方々が築き育んできた明訓魂を継承し、同窓会員としての誇りを持ちながら、引きつづき努力をしていかなければなりません。

さて、新しい時代―二十一世紀の初頭を迎えました。一世紀の初頭を過ぎました。が、相変わらず社会経済状況は激動と先行き不透明の中にあり、一層その厳しさを増してきております。そのような状況の中で、現在我が母校では、新しい時代に対応し、新生新潟明訓高校として大きく飛躍をし、発展するために、市内川岸町の現在地から同市北山の地への移転事業に取り組み、来年三月末には、校舎棟が完成する予定と聞いております。この事業は、新たな新潟明訓高校の歴史を創る正に世紀の大事業であります。今後、同窓会も含めて、学校関係者が一丸となつてこの大

事業に取り組み、その成功にも多く、広く各界各層に於いて、指導的立場で活躍をしておられます。このことは、今後の同窓会と母校の更なる発展につながるものと確信いたしますとともに、あとに続く後輩の皆様にも大きな励みとなり、自信と誇りをもって頑張っていただけの糧ともなるものと思ひます。

綱 領

向けて最大限の努力をしなければなりません。とりわけ、我々同窓会の協力体制が不可欠であることは言うまでもありません。現在、建設資金の一部となる募金活動等についても、同窓会員の皆様に、具体的なお願いをしているところであり、我々は、限りある人生ではあります

が、明訓同窓会と、母校新潟明訓高校の存在は永遠であり、そこに培われた伝統と校風もまた永遠であります。その母校に、一時代とは言え、ご縁を得た我々同窓会員として、今回の移転事業成功のために、一同、努力邁進していく責務があると存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、同窓会の皆様の今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。同窓会に對し、一層のお力添えを賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。ご挨拶といたしまして、

毎日の三つの感謝



理事 長
伴 昭彦

同窓会員の皆様にはいつも変わらず御元氣のこととお喜び申し上げます。

皆様方の母校である新潟明訓高等学校は、先般来、新潟市北山(亀田駅東口前)に移転すべく、準備中であり、来

思い返すのではなく、そこからすべてを恵みとして数え、新しい年を迎える準備をしなさいということだった、というのです。

渡辺理事長はその後、イタリアの一人の修道僧が毎日床につく前にその日のでき事の中から三つの「感謝すべきこと」を手帳に書き記す習慣を実行したということから自らもこれを実行されたということとです。本当に小さなこと、当り前のこと例えば洗濯物がキレイに乾いたことでも、友人と電話で連絡がついたとい

うようなことは当り前のことなのですが、それがもしそうならなかったとしたら、それは矢張り有難くない部類に入るでしょう。こうして考えてみると、有難いこと、感謝すべきこと色々あります。そのように考えることは、更に云えば自分を幸せにする第一歩だとも云えるでしょう。「当り前」のことの中にある感謝すべき恵みに気づくことで私達の人生も社会も明るくなつてゆくと思います。皆さまの明るいお幸せをお祈り申し上げます。



御挨拶

学校長

青木 一 男

同窓会の皆様方には益々御健勝で御活躍のことと心よりお喜び申し上げます。また、日頃から学校経営におきまして、御協力、御支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、平成十五年度入学生から、新学習指導要領にもとづく新教育課程を実施するこ

ととなりました。すでに、明訓同窓第四十四号で御紹介申し上げたとおり、I類・II類・III類の三つの類型を設けて授業を展開しております。この類型選択に当たって、推薦入試・専願入試及び一般入試の終わったそれぞれの段階で、合格した生徒及びその保護者に、各類型の目的として

いるところやその内容を十分説明した上で各類型を選択していただきました。その結果、スポーツ推薦をIII類の一学級にまとめ、I類、II類の学級編成には合格した生徒及びその保護者の希望を十分に尊重し、I類の学級を七学級、I類、II類の混合学級を二学級として編成したところであります。実に大学入試を主目的としたI類の選択者が七十五%に達している状況であります。このことから、学校として大きな責任を負う結果となり、その具体的な対応策を取る必要性が生じてまいりました。特に完全学校週五日制のもとにおける学力の定着及び学力の向上をどのように図るかという具体的な方策を立てることが急務となったのであります。

そこで、従来どおり、第一、三、五土曜は三時間の授業を実施し、それに加えて月、水、金曜の早朝に小テストを実施することとしました。火、木曜は五十五分授業を七限まで行っており、授業の終了が四時三十五分となりますので、月、水、金曜のみ小テストを実施し、結果のおもしろくない生徒には、その日の七限の時間帯に再学習してもらい学力の定着を図っていくこととしたものであります。また、週末には必ず課題を出し、第二、四土曜及び日曜、祭日は

家庭学習を十分に行ってもらい、さらに学力の向上を図ることと致したところであります。

次に、移転事業の進捗状況につきまして御報告申し上げます。造成工事が平成十五年三月末に完了し、平成十五年当初から建設工事に着手いたしました。工事は順調に推移しており十月末には全ての躯体工事が完了し、建物の全容が姿を現す予定であります。また、サッカー場・野球場、サブグラウンド等は屋内練

習場を含めて十二月末完成、十一月から始める内装及び建具工事とも一月末には完了の予定であります。その後、補修、クリーニング、検査を済ませ、平成十六年三月末には学校が引渡しを受けることになっていきます。このことを踏まえて平成十六年度の出来るだけ早い時期に移転したいと考えておりますので、同窓会の皆様方の一層の御協力、御支援をお願い申し上げます。

平成14年度

第15回首都圏新潟明訓会総会・

懇親パーティー開催

りました。本部長代理として児嶋が新潟の総会の様子など報告しました。また青木校長より学事報告が色々の分野にわたり報告されました。続いて懇親パーティーに移り、瀬下副校長より学校の校舍移転改築工事の現状がくわしく報告された後、乾杯の音頭を取られ、一同高らかに乾杯いたしました。新潟より持参の「越の寒梅」も振るまわれ、一同和気あいあいの中、ライブシンガールのMOMOさんの郷愁をおびた歌が披露され、盛り上りに一役買っていました。皆さん充分懇談の後、恒例の福引きで会場がわいた後、中々となり、奥田まゆ子さんの音頭で、最後に幹事の秋葉正樹さんの閉会の挨拶があり、名残り惜しさがつきぬ中、閉会になりました。なお、当日の出席者は77名でありました。

(児嶋記)

秋晴れに恵まれた平成14年11月16日(土) 13時より「銀座日航ホテル」に於て、平成14年度、第15回首都圏新潟明訓会総会と懇親パーティーが開催されました。

当日は会長公務のため欠席され、本部より、児嶋副会長(首都圏新潟明訓会担当)、大

倉副会長、藤田監事、学校側より、青木校長、瀬下副校長が出席されました。

まず後藤強首都圏会長より「このような盛大な会が出来るとも本部の多大な援助があればこそ感謝している。今后も総会参加者が多くなるよう努力したい」との挨拶があ



■躍進する新潟明訓高等学校 創立80周年記念事業■

校舎移転改築資金募金のお願い

新潟明訓高校 移転建設工事



募金のお願い

我々が母校、新潟明訓高等学校は創設以来80有余年、火災、震災など幾多の困難に遭いながらもその都度これ乗り越え、赫々たる歴史を刻んで現在に至っております。殊に近年では、進学に部活動に輝かしい実績を上げ躍進を続けています。同窓生として誠に嬉しく、誇らしい気持ちで一杯であります。

さて、母校では、世紀の大事業、校舎の移転建築を進めております。

広い校地・校舎、整備された施設は、生徒はもちろんのこと学校関係者積年の悲願でもありました。この事業には幾つかの越えなければならぬハードルがあるかと思いますが、立派に成功させて頂きたいと願うものであります。

しかし、この事業には巨額の費用がかかります。資金調達は学校資産の売却、金融機関からの借入れ、国・県・新潟市を初めとする関係市町村からの補助金、保護者、企業等の寄付金を予定しておりますが、広く同窓会の皆様方から本事業の趣旨を御理解をいただき浄財を賜ることによって初めて事業の成功が可能になるものと考えております。

時節柄、何かと出費多端の折り、誠に恐縮に存じますが、さらに御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます次第であります。

以下、事業の計画についてお知らせいたします。

一、移転事業の計画

○移転先

新潟市北山地内（JR信越線
亀田駅から徒歩5分）

○用地面積

八〇、一七二㎡
（二四、三〇〇坪）

○主な施設の面積

校舎

約一四、七三四㎡

体育館（大・小）

約五、八九八㎡

○事業費

総事業費 約79億円

○校舎の完成予定

平成16年3月31日予定

二、工事進捗状況と今後の予定

平成15年	3月31日	造成工事完了	10月中旬	室棟コンクリート打ち完了
	5月30日	建設工事実施承認受理	16年1月	内装工事期間
	6月1日	建設工事着工	10月末	躯体関係工事完了
	8月10日	サッカー場・野球場・サブグラウンド・造成工事	12月末	外装工事終了・足場撤去
	9月30日	管理棟・普通教	平成16年1月	外溝工事期間
			3月中旬	竣工・引渡し

募 金 要 項

一、募金目標額 三億円

二、募金の種類

- (1) 個人 一口 五千円
昭和63年以前に御卒業の方はなるべく二口以上の御協力をお願いいたします。
- (2) 法人寄付 一口 五万円
なるべく二口以上の御協力をお願いいたします。

三、募金期間

- (1) 個人 人
平成14年9月1日から平成16年12月末日まで
- (2) 法人 人
平成15年9月1日から平成17年8月末日まで

四、払い込み方法

- (1) 寄付払込用紙に必要事項ご記入の上、郵便局よりお払い込みください。
- (2) 法人(法人税法対象企業)で「受配者指定寄付金」制度ご利用の場合は、同封の「寄付申込書」に必要事項を御記入押印のうえ、新潟明訓高等学校募金委員会事務局宛お送りください。

五、寄付金に対する免税措置について

- (3) 分割寄付をご希望の方は払込用紙通信欄の「分割希望」の○印をご記入ください。払込用紙を再度お送りいたします。
- (1) 個人の場合
所得税法第78条第2項第2号の規定に基づき、特定公益増進法人に対する寄付金として、以下のような所得税の控除を受けることができます。
①寄付金が1万円を超える場合は、その超えた金額がその年の課税所得金額から控除されます。(但し、年間所得金額の25%が限度です。)
◎寄付金の所得税の還付例
五万円寄付の場合
(五万円 - 一万円) × 20% = 八,〇〇〇円還付
(あなたの所得に適用される税率が20%の場合)
②免税の手続きは、寄付をしていただいた翌年の確定申告期間に学校法人発行の領収書と新潟県の「特定公益増進法人証明書」(写)を添えて所轄税務署に確定申告を行い、所得税の還付請求をしてください。
(2) 法人の場合
(ア)「特定公益増進法人」制度利用
法人税法第37条3項第2号に基づいて、寄付金額が当該事業年度の損金に「特定寄付金」として損金算入されます。
①「特定寄付金」は一般寄付金の損金算入限度額と別枠で、これと同額まで損金として算入できます。
②この寄付金による損金算入は、学校法人発行の領収書と新潟県の「特定公益増進法人証明書」(写)によって免税の手続きをすることができます。
(イ)「受配者指定寄付金」制度利用
所得税法第78条第2項第2号及び法人税法第37条第3項第2号の規定に基づき財務大臣が指定(包括指定)した寄付金で、寄付者が法人(法人税法対象企業)の場合、寄付金の全額を損金として算入することが認められています。
①寄付者である会社等法人が寄付金を支出した日の属する事業年度(決算日)を過ぎると、寄付者は

その年度の損金算入が認められなくなります。十分ご注意ください。ようお願いします。
②法人税の全額損金算入が認められるためには、確定申告にさいして日本私立学校振興・共済事業団の発行する「寄付金受領書」が必要となりますので相当期間大切に保管しておいてください。

■寄付に対する顕彰

◎同窓会員の中から寄付に対し、顕彰を検討して頂きましたとの要望があり、検討させて頂きました結果、個人寄付十万円(二十口)、法人等企業五十万円(十口)以上御寄付頂きました方には御芳名を明記し後世に残すことにさせて頂きましたので御理解賜りますようお願い申し上げます。

■寄付金還元金(報償金)に関するお知らせ

以下の基準で寄付を集める為に作られた団体に報償金として寄付金の一部を還元する。
一、寄付を集める為作られた団体(例 卒業年度別グループ、野球部後援会、市役所同窓会、社内同窓会、有志の会等...)が個人寄付、法人等企業寄付を合算して30万円以上まとめて集め申告した場合は、その3%を報償金として還元する。
二、団体の責任者は、団体名と責任者を学校事務局に申告する。

お問い合わせ

学校法人 新潟明訓高等学校

校舎移転・改築事業募金委員会事務局

〒951-8133 新潟市川岸町2-6

TEL 025-266-5165

FAX 025-265-0235

学 校 高 案 内



今年の合格状況

国公立大学	合格者数	私立大学	合格者数	私立大学	合格者数
帯広畜産大	2	北海道医療大	1	日本大	49
北海道大	4	東北薬大	2	日本歯科大	4
北教大函館校	1	東北公益文科大	1	日本獣医畜産大	1
弘前大	1	国際医療福祉大	2	日本女子大	4
東北田大	2	獨協大	9	法政大	28
秋山形大	4	文教大	10	武蔵大	4
山形大	1	青山学院大	10	武蔵工業大	4
福島大	1	亜細亜大	3	明治大	19
茨城大	4	大妻女子大	7	明治学院大	25
筑波大	4	学習院大	6	立教大	2
宇都宮大	1	北里大	5	早稲田大	9
埼玉大	1	杏林大	1	神奈川大	21
千葉大	3	国立音大	3	関東学院大	6
お茶の水女子大	1	慶応大	2	新潟国際情報大	11
電気通信大	1	工学院大	3	新潟薬科大	17
東京学芸大	2	工学院大	11	新潟青陵大	1
一橋大	2	駒澤大	3	新潟医療福祉大	5
横浜国立大	1	芝浦工大	8	新潟工業大	15
上越教育大	3	順天堂大	1	金沢大	8
長岡技術科学大	1	上智大	1	北陸大	4
新潟大	63	昭和女子大	3	日本福祉大	4
富山大	2	成蹊大	6	京都産大	1
金沢大	1	成城大	8	同志社大	1
福井大	1	聖路加看護大	1	同志社女子大	1
信州大	1	専修大	29	明治鍼灸大	1
静岡大	1	東大	7	立命館大	12
香川大	1	拓殖大	4	関西大	2
鹿児島大	2	多摩大	2	そ	45
青森県立保健大	1	玉川大	1	私立大学合計	574
茨城県立医療大	1	多摩美大	2	短期大学	57
群馬県立女子大	1	中央大	24	横浜市立看護短大	1
高崎経大	1	津田塾大	5	立新新潟女子短大	25
東京都立大	1	帝京大	7	長野県短大	1
横浜市立大	3	東海大	13	埼玉医大短大	1
新潟県立看護大	1	東京家政大	3	大妻女子短大	3
石川県立看護大	1	東京経済大	14	駒澤短大	2
都留文科大	3	東京慈恵会医大	1	昭和女子短大	2
静岡県立大	1	東京慈恵会医大	3	明治短大	1
大阪府立大	1	東京農業大	6	日本歯大新潟短大	1
北九州市立大	1	東京薬科大	3	京外語短大	1
国公立大学計	127	東京理科大	12	そ	19
		東洋大	30	短期大学計	57

国公立127名

新潟大63名はじめ 北海道・筑波
東北・一橋・千葉・お茶の水女子
電気通信・金沢・横浜国立等
国公立大合格 127名
私大でも早慶上智で実績
明治19名、法政28名、中央24名
と大量合格!!

平成15年度入試をふり返りますと、大学・短大志願者に占める現役生の占有率が8割以上という「現役生中心」の入試構造に大きな変化はありませんでした。既に、私立大学は名前さえこたわらなければ合格できる状況となりました。いわゆる「大学全入時代」を目前に控え、一昔前とは隔世の感がございます。しかし、新聞報道にあったとおり、ある私立四年制大学は卒業生を1回も出さないまま倒産しました。少子高齢化社会の影響を直撃しているのがこの教育の現場であります。

受験生の大学教育に対する期待もだいぶ変化して参りました。かつて文系大学は「レジャーランド」と揶揄され、多くの学生がモラトリアムを謳歌したものであります。しかし、受験生の目は、自分が進学した大学でどのような企業に就職できているのか、キャリア支援がどうプログラムされているかに向けられています。その結果、やはり社会的評価の高い国公立大学・私立大学がこれまで以上に受験生の支持を集め、人気のある難関大学は依然として合格が厳しい状況であります。

これからは、大学も外部第三者機関による評価が一般的になってくるでしょう。学部別では、実学・資格志向から理系では医・歯・薬・看護・リハビリ系統は高い人気を維持し、さらに最近では、管理栄養士等の人気も高く、家政科への志望も女子を中心に伸びています。文系ではロースクールの法学部はもちろん、アカウントスクール構想を持つ商・経営学部系統も徐々に人気を復活させ、少子化ながら教育学部への志望も高いものがあります。

さて、このような状況の中で、本校の後輩諸君は素晴らしい健闘振りを見せ、新潟大63名をはじめ北海道・筑波・東北・一橋・千葉・お茶の水女子・電気通信・金沢・横浜国立等現浪あわせて127名の国公立合格者を輩出致しました。地域も北海道から鹿児島まで自己の進路希望実現のため各地に広がっています。これは、地域よりも本場に自分の学びたい事、研究したい事を優先させた結果であり、頼もしい次第であります。私大でも早慶上智で実績をあげ、明治19名、法政28名、中央24名と多くの生徒が希望どおり合格を果たしました。これら成果も明訓の伝統である生徒諸君の「好学」、そして先生方の親身の指導の賜であると確信いたします。

しかし、残念ながら悔しい涙を流した生徒がいたこともまた事実であります。入試前の付け焼き刃の勉強はセンター5教科7科目時代を迎えた今、有効ではありません。一・二年生からの日常の学習活動、地道な取り組みこそが栄冠に結びつくことになるでしょう。在校生諸君も、一日一日を大切に、若い貴重な時間を無為に過ごすことがないよう願って止みません。

平成十五年度 明訓祭

『絆〜One for all, All for one』

「この繋がり先の先に何があ
るのだろうか。明訓生よ、上
を向け！胸を張れ！文化と誇
りの高みへ！」今年と同窓生
皆様の過ごされた川岸町校舎
での最後の明訓祭。在校生は
その意味を感じ取り、同級生
との絆、そして先輩からの絆
を断つことなく未来へと繋げ
てゆこう、とサブタイトルを
つけました。

総合展示では数多くの優勝
旗と賞状が並ぶ部活コーナ
ーや学校行事の写真からは深刺
とした明訓生の姿が見られま
した。進路コーナーも好評で
「しんろ」の冊子を多くの中
学生が手にしていました。在
校生の注目を集めたのは新校
舎の建築状況の写真です。ど
んな学校生活が待っているの
か興味津々のようでした。
一年生美術書道展示・合唱
コンクールでは日頃の授業で
の成果を発表しました。放課
後の作業や朝練を積み重ねた
発表は年々レベルアップして
います。真摯に芸術に向き合
う姿は観る者を感動させる力
をもっています。

クラス表現では前庭構築
物・ステージ部門の人氣が高
く、今年は企画書審査も難航
しました。どの部門も甲乙つ
け難い力作揃いの中、明訓大
賞が授与されたのは、三年九
組「STOMP」。クラス一団
となって軽快なリズムに乗り
ステージ中を跳ね回る。息を
合わせ一糸乱れぬ動きは二年
生から同じクラスで培った絆
を感じさせました。その他、
部門賞を紹介します。

教室展示部門―二年五組
「the☆ケータイ」全校に調
査をして昨今の携帯電話の状
況を報告。

前庭構築物部門―三年六組
「地球をのせて」ロボットが
千羽鶴に覆われた地球を支え
る。空き缶と自然の緑を融合
させた巨大な門。

教室演劇部門―二年八組「お
笑いライブ」多くの観客を笑
わせました。多岐の観客を笑
わせました。

ステージ部門―三年四組「高
校生日記」ドラマやCMでお
馴染みのBGMに乗って楽し
く高校生活を再現。

演劇、合唱、ダンス、吹奏
楽部の発表では体育館、ギャ
ラリーが観客で埋まり、ステ
ージと観客が一体となって盛
り上がりました。
二十四日に特別文化行事を
行いました。東京芸術座をお
招きし、県民会館で「十二人
の怒れる男たち」を鑑賞しま
した。演劇に先立ち新潟大学
法学部教授の西野先生より日
本では馴染みの薄い陪審制に

ついて講演して頂きました。
舞台は裁判所の一室、十二人
の陪審員の会話が続きます。
役それぞれの話から役柄が伝
わり、白熱した演技に徐々に
物語に引き込まれ、瞬間間に
百分が過ぎました。生徒たち
は、本物に触れた驚きと感動
で舞台を見つめていました。
今年度も学業、学校行事、
部活動に励み、充実した高校
生活を送る明訓生の姿を16



「前庭構築物部門賞」作品 (三年六組)

00名の来校者の方々に見て
頂くことができました。来年
度以降、新校舎ではどのよう
な形態で明訓祭を行うか。今
後も検討は続きますが、これ
までの創造性あふれる明訓生
の力を発揮する場、サブタイ

トルにある通り、まさに「文
化と誇りの高みへ」邁進する
姿を内外にアピールする場と
しての意義は引き継いでいか
ねばなりません。今後とも生
徒へのご声援をお願いいたし
ます。

修学旅行 学びの旅

九月三日からの三泊四日の
修学旅行。広島、京都共に天
候にも恵まれ、また旅行中は
明訓生としての自覚を持った
行動によって何事もなく無事
に終えることができました。
三泊四日の行程の主なポイ
ントを載せておきます。
三日(水) 広島神社見学
四日(木) 広島平和公園及
び原爆資料館見
学、被爆体験講
話 その後倉
敷、姫路 クラ
ス別行動
五日(金) 京都市内別行
動
六日(土) クラス別行動

旅行後生徒たちの感想を聞
くとやはり広島原爆につい
てのものが多かったように思
われます。この旅行を通して
生徒たちは数々のことを学び
有意義な時間を過ごすことが

修学旅行を通して：
僕は、この修学旅行を通し
て、普段学校では学べないよ
うなことを数多く学べたと思
う。その中でも僕が特に心に
残っていることについて述べ
たいと思う。
まず、広島平和記念公園。
原爆ドームや平和記念館を見
たほか、被爆講話も聞くこと
ができた。第一に感じたのが、
「悲惨」だった。それは、人
間が本当にしたことなのだろ
うかと疑ってしまうほどだっ
た。原形がわからなくなって
しまったガラスの瓶、黒こげ
になってしまった弁当箱、熱
線によって女性の着物の柄が
皮膚に焼きついた写真、そし

て講話をしてくれた方のよう
に今なお原爆によって苦しむ
人々：僕は誰もが、原爆に関
してこのように現実を見た
り、聞いたりする体験をする
べきだと思った。「第二次世
界大戦は広島原爆がなければ
終わらなかつた。」と言う
人が中にはいるが、話し合い
で終わらせることはできなか
ったのだろうか、改めて感
じた。この経験は、世界平和
について考えるよい機会にな
った。

次に、京都の班別行動。仲
間との協調性を学んだり、京
都の建築や芸術品をおおいに
満喫することができた。やは
り、本で見る物と本物の迫力
は全く違った。その時々の歴
史や背景を感じながら、鑑賞
する日本芸術は何とも言えず
素晴らしい。暑い中、歩き疲
れはしたものの、仲間と協力
して最後の目的地までたどり
つけた喜びを共有できた一日
間は楽しかった。

最後に、この修学旅行委員
の人達、先生方、両親、旅行
会社の方々、他大勢の人々に
一生の思い出に残る修学旅行
をありがとう！

「文化」について

修学旅行も三日目。班別自
主研修でのバスの移動中に六
十代ぐらいの女の人と席が隣
になった。その人は、修学旅
行生に慣れてしている様子で、自

分に話し掛けてきた。

「どこから来たの。」

「何ていう高校の人。」

などと、話が進んでいくつ
に、話題は京都と新潟の味付
けの違いや新潟の風土につい
てになっていった。自分は京都
についてもっと知れたかった
ので、

「京都の町並みは綺麗です
ね。」

と、その人に聞いてみると、
その人はそれが当たり前で、
特に変わったところはないよ
うに感じている返答をした。
自分は今まで、ある一定の
年齢になった人というのは、

「自分の住んでいるところの
文化が一番」と考えているも
のだと思っていたので、その
返答に驚きを感じてしまっ
た。しかし、自分が新潟につ
いてあまり特異性を感じてい
ないことを考えると、自分の
身近にある文化についてはそ
の良さに気が付き難いのでは
ないかと思う。

そしてこれは、想像上にす
ぎないが、身近にある文化の
良さを知らずには、一度そ
こから離れてみないとわから
ないのではないかと思った。
自分は、新潟があまり好き
ではない。しかし、自分の故



郷の良い所
が何にも語
れないとい
うことは恥
ずかしいこ
とだと思っ
ている。自
分の故郷を
好きになる
ためにも、
一回は必ず
新潟から離
れて生活
し、故郷の
良さについ
て考えてみ
たい。

部活動報告

—各科目覚ましい活躍—

【運動部】

◎陸上部

◎北信越大会 6/20～22

富山県総合運動公園陸上競技場

・女子4×100M リレー 第4位

・女子4×400M リレー 第10位

・女子100M 鈴木 智子

・女子200M 鈴木 智子

・女子400M 鈴木 智子

・女子800M 山本あゆみ

・女子走幅跳 二宮 千愛

・男子走幅跳 清田 達史

◎少年共通男子

800M

第4位 箕輪 祐俊

◎ナイター陸上 8/30

新潟市陸上競技場

・女子100M 早川明日香

第4位 早川明日香

第6位 二宮 千愛

◎秋季地区大会 9/13～14

中条町総合グラウンド陸上競技場

・女子100M 鈴木 智子

第2位 鈴木 智子

・女子200M 鈴木 智子

第3位 鈴木 智子

・女子800M 山本あゆみ

第2位 山本あゆみ

・女子1500M 奥村 春香

第3位 奥村 春香

・女子3000M 奥村 春香

第3位 奥村 春香

・女子400Mハードル 武石 樹里

第1位 武石 樹里

・女子4×100M リレー 第2位

女子走幅跳 鈴木 智子

第1位 二宮 千愛

女子7種競技 大津 優

第3位 大津 優

男子800M 箕輪 祐俊

第1位 箕輪 祐俊

男子走幅跳 清田 達史

第3位 清田 達史

◎水泳部

◎北信越総体 7/18～20

小松市宮屋外プール

男子1000M平泳ぎ

第8位 黒田 恭章

◎柔道部

◎春季地区大会 4/26～27

鳥屋野総合体育館武道場

・女子48kg級

第1位 梶谷 萌絵

第2位 織田 望美

◎サッカー部

◎春季地区大会 第3位

◎秋季地区大会 第3位

◎弓道部

◎国体選手選考予選会

6/7 新津市弓道場

・国体弓道少年の部

選手 増井 博美

◎剣道部

◎北信越大会 6/20～22

戸倉町総合体育館

・女子個人 第3位 針貝美奈子

ベスト8 大澤 朋代

団体戦

男子 優勝

女子 優勝

優秀選手賞

男子 後藤 純司

女子 及川 佳恵

◎秋季地区大会 9/13～14

白根高等学校

・女子個人

優勝 大澤 朋代
ベスト8 荒井 彩絵
吉沢 直子

・団体
男子3位 女子優勝

◎テニス部

《北信越大会》 6/21~22
新潟市庭球場

・男子団体 第3位

《国体予選大会》 7/12~13
塩沢町大原運動公園

・男子シングルス
優勝 野上 流星

《全国選抜高校テニス大会》
新潟県一次予選

8/20~21 新潟市庭球場

・男子団体 第3位

《秋季地区大会》 9/2~3
新潟市庭球場

・男子シングルス
ベスト8 石橋 弘行

《県高校テニス選手権大会》
9/20 塩沢町大原運動公園

・団体 ベスト8

◎野球部

《県大会》 県内各地
ベスト8

《夏の甲子園県大会》 県内各地
第3位

《北信越地区新潟県大会》
第3位

《北信越大会》 10/9~13
福井県営球場他

1回戦 明訓10-2富山一
2回戦 明訓5-3松商学園
準決勝 明訓1-6金沢

第3位

◎ハンドボール部

《県総合体育大会》
5/31~6/1 巻高校

第3位

《北信越大会》 6/21~22
氷見ふれあいスポーツセンター

1回戦 明訓9-43北陸

【文化部】

◎囲碁部

《春季新潟県大会》
5/23~24 敬和学園高等学校

・男子個人
Bブロック
優勝 渡辺 俊

Cブロック
優勝 斉藤 誠

・団体
男子 ベスト8
女子 優勝

全国大会出場

◎放送部

《NHK杯全国放送コンテスト》
県予選 6/13
新潟市音楽文化会館

・アナウンス部門
第1位 竹内 葵

第4位 廣川 千紘

・朗読部門
第1位 江口 彩

第5位 早川 渚

・ラジオドキュメント部門
第4位

・テレビドキュメント部門
第1位
テレビドラマ部門

第1位

◎吹奏学部

《県吹奏楽コンクール》
8/7 長岡市立劇場

金賞

《西関東吹奏楽コンクール》 9/14
所沢市民文化センターミューズ

銅賞

◎写真部

《県高文連》 撮影大会

全国大会への道

陸上部(女子)

二宮千愛

高校に入学してからの私の目標はもちろんインターハイ出場でした。なのでこの夏、長崎インターハイに出場できた事を本当に嬉しく思っています。

北信越大会の約二週間前、学校行事として球技大会が行われました。私はそこで自分のちよつとした不注意で左足首をねんざしてしまいました。病院に通いましたが、医者には「インターハイは諦めなさい」と言われてしまいました。練習もしばらくは筋トレぐらいしか出来ずにいて内心すごく焦っていました。練習不足のせいもありむかえた北信越大会ではなかなかまとまる跳躍が出来ずにいました。しか

5/29~30 ユニゾンプラザ
特選 片桐 梓
五十嵐陽子

奨励賞 藤村 薫
山口日向子

五十嵐奈央
入選 藤井 桃子

《全国高総文祭》
福井大会 写真部門

8/7~10 福井市美術館
大賞

入選

陸上部(女子)

重住美奈子

私陸上競技部は今年、八年ぶりとなるインターハイの舞台に立つことができた。今年是一年生が個人種目で百メートル、二百メートル、走幅跳の出場を決め、それに四百メートルリレーが加わり、計六名のインターハイ出場が決まった。

私達は、それぞれの出場日、出場種目に合わせて調整をし、万全な状態で臨んだ。結果として、全種目予選敗退となり、準決勝、あるいは決勝へと駒を進めることはできなかった。しかし、ここまで努力し、全国の舞台で自分達の走りや跳躍ができて、良かったと思っている。そして一・二年生にとっては来年の島根インターハイへのステップとなり、三年生にとっては三年

間の最高の思い出となり財産となった。

さて、陸上競技部は今年度からスポーツ推薦が始まったわけだが、その制度に踏み込む前に、部内全体の改革が必要だった。そのため、昨年のシーズンが終わった後、全員が退部させられた。新しい陸上競技部には、強い志を持ち、気持ちを新たにしたい今までのメンバーが入部。新たな陸上競技部がスタートした。今回、インターハイに出場できたのも、部員全員が一つの戦う集団になり、全員で陸上競技ができたからだと思う。そして、一・二年生には、更に上を目指して頑張してほしい。

最後に、指導して下さった先生方、応援して下さい下さった方々、そして、部員のみんなに感謝。本当にありがとうございました。

剣道部(男子)

後藤純司

僕たち剣道部は二年連続インターハイ出場を目指し練習をしてきました。去年インターハイを経験してきたメンバーが多かったので気を緩めなければ今年も狙えると思っています。しかし予選リーグから苦戦を強いられ、準決勝で惜しくも負けてしまいま

した。女子団体は圧倒的な力をみせつけ、県を制しました。負けた瞬間涙がこみあげてきてとても悔しい思いでいっぱいでした。

個人戦では自分がインターハイに出場しました。個人、女子団体ともに全国の強豪校に全くひけをとらず長崎の地で最後の試合をすることができました。この三年間毎日部活をやり、仲間と共に過ごした日々が忘れられません。今までやってきた三年間の努力は、決して無駄にはならず卒業して社会にでてから、この努力がきっと何かの役に立つと思っっています。後輩たちは自分たちがインターハイにいけなかった分悔いのないようがんばってほしいと思っっています。努力すればした分だけ結果がついてくるのでがんばってほしいと思っっています。

最後に今までお世話になった先生方、仲間達、そして父兄さん方に感謝したいと思っっています。本当に有難うございました。

剣道部(女子)

大澤朋代

私達剣道部女子は、団体・個人共に県予選を勝ち抜き今年全国大会が行われる長崎県福江島へ行ってきました。出場するからには去年先輩

達と残した「全国ベスト16」という結果を越えるため、そして三年生と一緒に出来る最後の大会で一試合でも多く試合をするため部員一丸となって厳しい稽古をつんできました。

しかし結果はベスト16：：8強入りすることはできませんでした。また、個人戦では自分の力を十分に発揮することができないまま負けてしまいました。悔しい思いをしました。

私は大会を終えて全国のレベルの高さ、チームワークの大切さを学ぶことができた。自分にはまだあと一年あるので、今年果たすことのできなかった「全国8強入り」を目標に悔いのないよう部員全員で頑張っていきたいと思っっています。

最後に、今まで自分達を引っ張っていつてくれた先輩方ありがとうございます。また学校の先生方をはじめ、仲間、そして両親に心から感謝したいと思っっています。これからまた日々精進していきたいと思っっていますのでよろしくお願ひします。

写真部

山口日向子

今年の夏休みに福井県で行われた全国大会に、後輩と一緒に参加してきました。

全国大会では、一日で撮影からセレクトまで行い、その翌日に講評・表彰が行われる現地撮影会があり、私は大賞を受賞することができました。私は高校に入学してから写真を始めましたが、最近まで、思うような写真を撮ることができませんでした。しかし、3年生になってから、写真を撮るようになってから、自分が写真を通して表現したいものがだんだんつかめてきました。その成果が表れたと思っっています。

全国大会の作品展は、技術的なレベルが高いだけでなく、「こんな撮り方もあるんだ。」「こんな写真を撮りたいたい!」と思わされるような、独創的で感性豊かな写真が並んでいました。この作品展からとても刺激を受け、多くを学ぶことができました。

写真に写るものは、撮る側の気持ちだと私は思っっています。被写体、あるいは風景から感じとったものを写真に写そうとしていきます。「かわいい」や「おもしろい」等、単純な気持ちでも、それを上手に表現することが大切で、そして写真の難しさでもあります。部活は引退となりますが、これからも多く写真を撮り、多くの人に私の写真から何かを感じてもらいたいと思っっています。

終身会費納入者御芳名

平成十五年八月三十一日現在 (敬称略)

Table listing members of the Endowment Association (終身会費納入者御芳名) as of August 31, 2003. The table is organized by graduation year (e.g., 昭和二十八年卒, 昭和二十九年卒, etc.) and lists names in columns. Some names are grouped by year and listed in a specific order.

Table listing members of groups 6 (42 names) and 7 (38 names) with their names and group numbers.

Table listing members of groups 8 (38 names) and 10 (28 names) with their names and group numbers.

Table listing members of groups 1 (1 name), 2 (2 names), 3 (5 names), 4 (3 names), 5 (1 name), 6 (3 names), 7 (1 name), 8 (5 names), 9 (1 name), and 10 (3 names).

年会費納入者 御芳名(敬称略)

平成十四年度 会費納入状況

◎終身会費 定時制5回生 1名 五、〇〇〇円

会務報告

◎年会費 全日制54回生 25名 二五、〇〇〇円

◎入会金 本年入学者 435名 四三五、〇〇〇円 ◎合計 二、四二六、〇〇〇円